

○全国学力学習状況調査結果の分析

4月18日(火)に、3年生を対象に実施した、全国学力学習状況調査の本校の結果を、各教科で分析しました。

【国語】

- ・「話すこと・聞くこと」の正答率が高く、県平均、全国平均を上回る結果であった。これは、話し合い活動における学習の趣旨や目的を理解し、問いを立てて、情報を取捨選択できる習慣が身につけていると考えられる。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項の中で、「事象や行為、心情を表す語句」に関する問題の正答率は95.5%であった。「どんなふうに書いてあるか」「表現や表現技法からどんなことがわかるか」を主軸とした読み取り方を一貫して行ってきた結果であると考えられる。
- ・「読むこと」の正答率が、県平均、全国平均を5ポイント前後下回った。文章の部分に着目して読み取ったことを文章全体に反映することが苦手傾向にある。その傾向を克服するために、言葉や表現に着目して読み取った内容は、本文に即しているか否かを検証しながら、文章の全体像をつかみながら読み進めることをより意識した授業を心がける。

【英語】

- ・聞くこと、書くこと、読むこと、話すことの4技能中では、聞くこと、話すこと(やりとり)については全国平均以上、またはそれ近くまで到達している。この点については、帯活動で実施している活動の成果であると考えられる。
- ・話すこと(発表)については、極めて低い結果であった。授業内でなかなか「即興的な」発表の力をつけるための活動を行えていないことがこの結果につながっている。
- ・書くことについては、まとまりのある英文を書く問いでの正答率が低く、課題がある。
- ・読むことについては、内容によって正答率

に違いがあった。日常的な内容の英文では正答率が高く、資料を用いる問題や、社会的な内容の英文では正答率が低い傾向にある。読む内容についても、幅広く選択していく必要がある。

【数学】

- ・数と式、図形、関数、データの活用の4区分のうち図形分野が最も正答率が低い。
- ・図形分野で特に課題なのが、証明の記述問題である。普段から、証明の必要性の具体を取り上げて指導していくことを心がける。
- ・データの活用は、県平均、全国平均を上回る結果であった。平均値、中央値、最頻値など表の数字から読み取る問題については自信がついているようである。

【生徒質問紙より】

- ・朝食を毎日食べている、毎日同じくらいの時刻に寝ている、起きている生徒の率は県平均、全国平均よりも高い数値であった。
- ・将来の夢や目標をもっている率は県平均、全国平均よりも20%近く高い数値であった。
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている率は県平均、全国平均より7~10%高い数値であった。

3年生は進路選択を控えているが、基本的な生活習慣の維持、夢や目標の実現への意欲、郷土愛を持ち続けてほしい。

○表彰

- ・「中学生税についての作文」

小田原税務署長賞	神之田 祐輔
松田町長賞	山崎 さとか
小田原ヤクルト社長賞	馬場 爽代香
奨励賞	種田 有希乃

- ・県西ブロック中学校秋季卓球大会

女子団体の部	3	位
男子団体の部	3	位
男子新人の部	優	勝
	深澤	健太